

地域と環境への配慮

オイルショックは、省エネと環境への意識も高めました。北陸電力は、環境保全の一環として、1974年（昭和49）富山新港火力発電所1号機に、千代田化工建設株式会社と共同で開発した世界最大級の排煙脱硫装置*を備え付けました。その後、同じ方式による排煙脱硫装置は1975年（昭和50）に福井火力発電所1号機と富山共同火力発電所1号機にも設置されました。

富山新港火力発電所では、窒素酸化物低減対策として、同発電所2号機に乾式アンモニア接触還元法の排煙脱硝装置を採用しました。さらに、押込通風機の建屋内収容、ボイラー防音壁の設置、敷地周辺での土盛植樹など、騒音防止・景観対策にも力を入れました。

*その後、低硫黄分の燃料受入れが可能になったことを受けて1982年（昭和57）に撤去



富山新港火力発電所 排煙脱硫装置

